

八戸学院幼稚園第1回卒園生

10年前の夢と「再会」

タイムカプセル開封

八戸

八戸市の学校法人光星学院八戸学院幼稚園(道台康子園長)で8日、2007年度に卒園した同園第1回

卒園生が園庭に埋めたタイムカプセルが開封された。

高校1年生となった卒園生たちが、園生活の思い出をつづった紙を10年ぶりに読み返し、当時を懐かしんだ。



当時の担任から園生活の思い出をつづった紙を受け取る卒園生

埋設10年と本年度の同法人創立60周年を記念し開封イベントを開催。参加した卒園生16人や代理の保護者ら計約30人は、同園ホールに集まると、久しぶりの再会を笑顔で喜んだ。

園庭では代わる代わるスコップを手に取り、地中数十センチの深さに埋まった金属製のカプセルを掘り起こした。中には「幼稚園の思い出」と題し、卒園生50人が書いた写真付きの紙が入っており、当時の担任教諭が、卒園生一人一人の名前を読み上げて返却。卒園生たちは友人たちと読み返し、思い出話に花を咲かせた。

佐々木勇成さん(八学光星)は「友達と遊んだことや積み木遊びが楽しかったと書いてあった。当時を思い出して懐かしくなった」と笑顔。櫛部莉緒さん(八戸工)は「会ったのが卒園以来の人もいて、みんな大人になったなと感じた。良い思い出になりました」と話した。(小橋徹)